

平成17年度八重山群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

3月の気象予報

要素別予報

要 素	気 温	降 水 量	日 照 時 間
予 報	並 ~ 高	並	並

(平成18年2月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平均値

要 素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	20.6	23.2	18.3	128.7	112.2

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

3月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

八重山群島

1 水稻

スクミリンゴガイの防除対策について

- a 耕耘、代かき等により貝殻の破壊や土中への埋没を図る。
- b 貝および卵塊を捕殺し、貝密度を下げる。
- c 餌や産卵場所となる水路周辺の雑草を除去する。
- d 移植苗として中・成苗を用い、移植後は浅水管理(1cm以下)を行う。

2 さとうきび

黒穂病の防除対策について

- a 毎年3月中旬頃から主に株出圃場において黒穂病が発生する。
- b 生育初期は発病株の識別が容易で、抜き取り作業もしやすいので早期防除に努める。
- c 胞子の飛散を防ぐため、発病株は鞭状体の出現前に抜き取り処分する。
- d 抵抗性品種を植え付けるようにする。
- e 苗の薬剤浸漬処理を行う。

サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策について

- a 1～5月は成虫の発生時期にあたるので、誘殺用合成性フェロモントラップの設置・管理を徹底する。
- b トラップは風通しの良い圃場周縁部に設置する。
- c トラップ周辺の除草を行い、風通しを良くする。

3 マンゴー

開花期の病害虫防除対策について

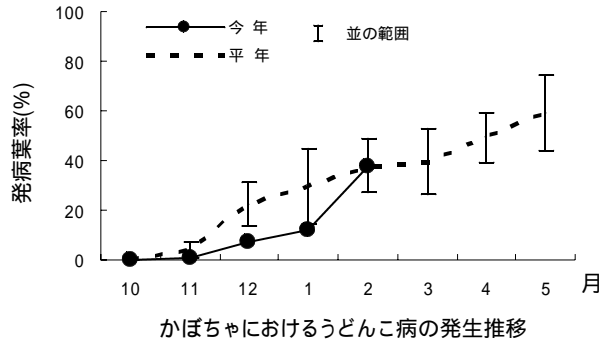
- a 開花期を迎えたこの時期は、花穂を中心に炭そ病、うどんこ病、チャノキイロアザミウマやチャノホコリダニなどの病害虫が発生する。
- b 病害虫の発生程度はまだ低いものの、今後、気温の上昇とともに増加すると予想されることから、早期発見・防除に努める。

4 かぼちゃ

(1)うどんこ病

発生程度：並
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病葉率は37.5%(前年46.2%、平年38.7%)と平年並であった。



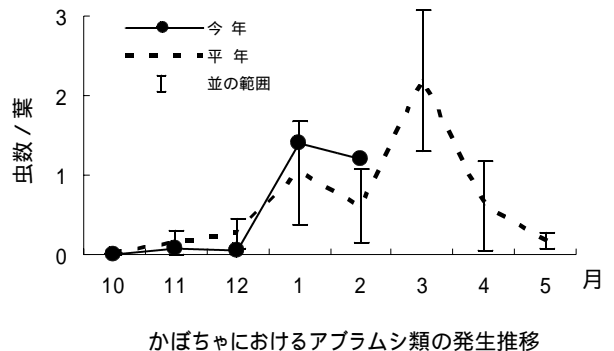
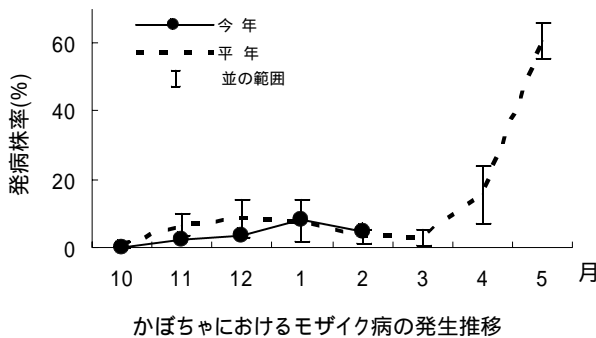
防除上注意すべき事項

- 老葉や病葉は発生源となるので放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

(2)モザイク病

発生程度：並
予報の根拠

- 2月中旬の調査の結果、発病株率は4.6%(前年0.7%、平年3.3%)と平年並であった。
- 本病を媒介するアブラムシ類の葉あたり虫数は1.2頭(前年2.8頭、平年0.6頭)とやや多かった。
- 気象予報では3月の気温は平年並か高くなる見込みで、本病の媒介虫であるアブラムシ類の増加に注意が必要である。



防除上注意すべき事項

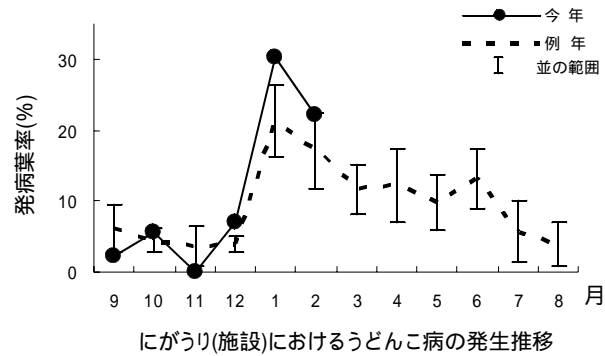
- 媒介虫であるアブラムシ類の圃場への飛来侵入防止と防除を行う。
- 発病株は発生源となるので見つけ次第抜き取り、ビニール袋等に入れるなどして密閉処理する。
- 平成17年度病害虫発生予察注意報第4号(平成18年1月31日付け)参照。

5 にかうり(施設)

(1)うどんこ病

発生程度：並
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病葉率は22.2%(前年16.6%、例年17.0%)と例年並であった。



防除上注意すべき事項

- 老葉や病葉は発生源となるので、施設内外に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除所

本 所	〒903-0814 那覇市首里崎山町4-222 ☎ 098-886-0227 FAX 098-886-0242
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 ☎ 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 ☎ 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157